

都市再生整備計画

おおいしだきよてんけいせい
大石田拠点形成地区

やまがた 山形県 おおいしだまち 大石田町

平成27年1月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山形県	市町村名	おおいだまち 大石田町	地区名	おおいだ きよてんけいせいちく 大石田拠点形成地区	面積	約129	ha
計画期間	平成	27	年度	～	平成	31	年度	
					交付期間	平成	27	年度
						～	平成	31
							年度	

目標

大目標 公共施設の再構築に伴う町民コミュニティの確立とふれあい空間、賑わいの創出。

〔目標1〕高齢者の健康づくりと生きがいづくりを促進し、社会参加につなげる。

〔目標2〕町民交流の場の活用による子育て支援環境の充実を図る。

〔目標3〕町民・事業者活動による新たな観光交流イベントの創造を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・町の位置と歴史

山形県のほぼ中央に位置し、総面積79.52km²の町は南北に最上川が貫流し、舟運と羽州(うしゅう)街道の流通拠点として栄え、その流域に発展してきた。元禄2年には「おくのほそ道」の旅で松尾芭蕉が門人曾良をともなって訪れた際、地元の俳人とともに歌仙を巻き、その様子を「おくのほそ道」の中で「このたびの風流ここに至れり」と記している。また、歌人齋藤茂吉は終戦後の2年間を大石田で過ごし、滞在中に作られた歌は歌集「白き山」に収められている。他に金山平三や小松均など多くの画家によって最上川を通した風景が描かれ、芸術家の感性や創作意欲を刺激する風景や自然、風土が息づいている文人墨客に愛されてきたまちである。

・まちづくりの経緯及び状況

当町は、11月半ばから3月下旬まで雪に覆われ、平成25年度には最高積雪279センチメートルを記録した豪雪地帯である。

人口は減少傾向にあり、町の高齢化率は高く、今後老年人口の増加が一層顕著になるとともに冬季の厳しい自然環境が外出機会を減少させることで高齢者が要介護者となるリスクが高まっていることを受け、総合振興計画において「自分の健康は自分で守る」取組みが必要と位置付けた。また、町が過疎地域の指定を受ける中、少子高齢化にともない当町でも核家族化や共働き家庭の増加などの働き方や生活スタイルの変化から、安心して子どもを産み・育てることができる子育て支援環境の整備が急務となっている。

町ではこれまでに過疎地域を活性化させながら定住を促進し、町民福祉の向上を図るため、昭和58年より「樋ノ口」「日照畑」「駅前」の3地区に渡り区画整理事業を推し進めてきた。

初めに行われた区画整理事業地内である「樋ノ口」地区に、昭和61年、町役場新庁舎が移転建設され、後に整備された桂桜公園やクロスカルチャープラザ「桂桜会館」、とともに行政・文化拠点の役割を担う新たなエリアを形成し、更に人口減少と高齢化社会に対応できるコンパクトなまちづくりに向け、「日照畑」「駅前」の区画整理事業を平成22年まで展開してきた。

また、冬期間の積雪及び道路の安全対策として、いち早く道路の凍雪害防止事業に取り組んでおり、特に中心市街地である大石田地区では平成13年より消流雪揚水導入事業として認可を受け、国土交通省が最上川からの取水施設及び揚水施設を整備し、山形県と町がそれぞれに管轄する道路の改良に取り組み、更に地域住民の管理組織である大石田地区流雪溝利用協力会連合会が運営するという三位一体の体制で、安全で住みやすいまちづくりに取り組んでいる。

これまでのまちづくりは、行政サービスの拠点である役場や山形新幹線が停車するJR大石田駅を中心としたエリアに都市機能の集約を進め、利便性や安全性、快適性の向上を目指してきた。今後はさらに少子高齢化の取組みを発展させ、まちなかの子育て支援とともに高齢者の「生きがいづくり」から高齢者が元気に社会参加することで大石田町を活性化させる取組みとして、高齢者にやさしい「歩いて暮らせるコンパクトシティ」のため公共施設の集約・再構築と世代を越えたコミュニティづくりから地域の観光やにぎわいと発展に取り組むものである。

課題

・地域の賑わいを創出する取組みとして、高齢者の健康づくりや生きがいづくり活動を支援し、元気に社会参加をし続けるための仕組みが整っていないことが課題である。また、高齢者の経験・知識・技能を活かせる仕組みが不十分であるため、高齢者にやさしい「歩いて暮らせるコンパクトシティ」づくりのための公共施設の集約と再構築を図り生活環境を整備することが課題である。

・少子高齢化による人口の減少や核家族化、共働き家庭の増加などにより、子育て世代にとって安心して子どもを産み・育てることができる環境が整っていないため、その環境を充実させることが課題である。また、世代間の関係が時代とともに希薄化しており、世代を越えた町民間の交流から大石田町の人口と都市機能を維持していくため、具体的な施策を実行していくことが課題である。

・山形新幹線の停車するJR各駅の中で、徒歩では最短の時間で最上川に到達でき、その雄大さを感じられるという大きな観光資源を有するものの、その魅力アピールが十分でないため、大石田駅を利用する観光客の多くは隣市の尾花沢市銀山温泉を目的と完結してしまうことから、町の魅力を発信する取組みや対策を行っていくことが課題である。

将来ビジョン(中長期)

上位計画第6次総合振興計画

1.社会参加・生きがい施策の推進

高齢者が生きがいを持って豊かな生活が送れるよう、老人クラブ活動の支援や高齢者の学習・健康づくり・交流の場の提供に努めるとともに、高齢者の経験・知識・技能が発揮できるよう、就業や社会参加を促進する。

2.子どもの健やかな成長に資する教育環境の整備

児童生徒が乳幼児に触れ合う機会の提供等、次代の親の育成に向けた施策の推進、生きる力を育てる学校教育環境等の整備、家庭や地域の教育力の向上に向けた学習機会の提供、有害環境対策の推進等、子どもの健やかな成長に資する教育環境の整備を進める。

3.既存観光・交流資源の拡充・活用

町民及び事業者との協働により、大石田温泉等の既存観光・交流拠点の充実をはじめ、雪灯ろう街道に代表される雪を活用した観光・交流イベントの内容充実を進めていくとともに、広域的連携による一層の魅力拡大を図る。

目標を定量化する指標

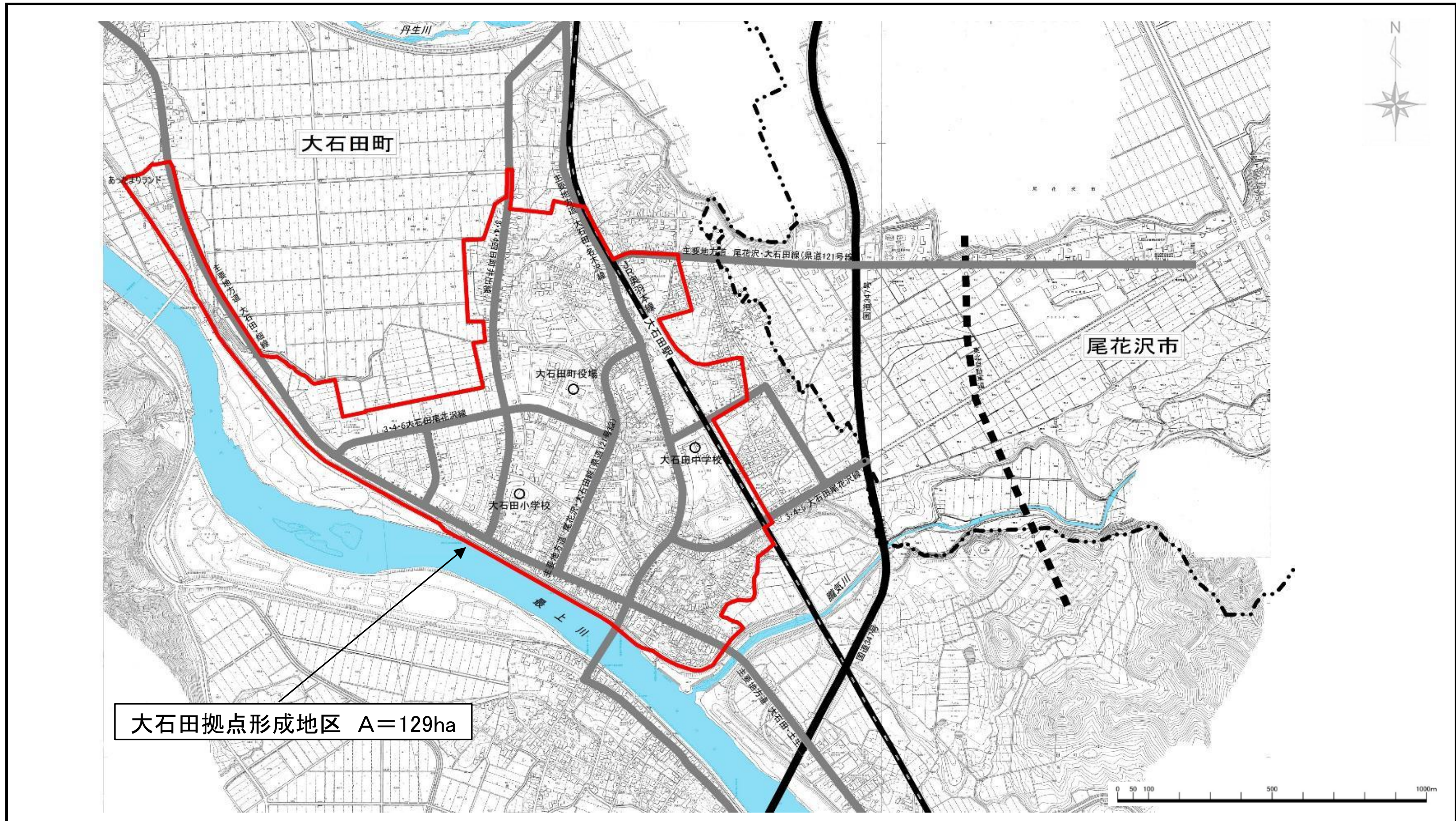
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
公共施設の住民満足度	%	町民アンケート調査による「福祉会館」「母子健康センター」「子育て支援センター」に関する満足度	町民及び来街者が集える新たな交流・文化拠点施設の建設により、町民満足度の高い日常生活、快適空間の創出を促す。	14.7%	52.8%
地区内の年間公園利用者数	人/年	地区内公園を活用したイベント・行事の利用者数	地区内の対象となる公園を活用したイベント・行事、特に防災イベントを新たに実施することとし、これらの参加者数を目標値とする。	1,000人	1,500人
中心市街地の観光入込客数	人/年	大石田町の中心市街地(計画区域)内における観光入込客数	町民交流センターと連携した町の回遊性空間の創出により、中心市街地(計画区域)の観光入込客数の維持、増加を促す。	186,400人	192,000人

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>1.高齢者の社会参加・生きがいをづくりを支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の寝たきりにならないための健康づくり支援。 ・高齢者の生きがいをづくり支援体制の強化。 ・高齢者の外出を促す地域コミュニティ拠点づくり。 ・高齢者にやさしいまちづくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町民交流センター整備(多目的ホール等)(基幹:高次都市施設) ・町民交流センター整備(図書館等)(提案:地域創造支援事業) ・町道役場小学校線道路改良事業(町道286号)(基幹:道路) ・(新)桂桜公園、都市公園大石田、大石田公園改修整備(基幹:公園) ・ふれあい休憩広場(基幹:地域生活基盤施設) ・にぎわい多目的広場整備(基幹:地域生活基盤施設) ・ウォーキングマップ作成事業(提案:地域創造支援事業) ・高齢者生きがいをづくり支援事業(提案:まちづくり活動推進事業)
<p>2.みんなで見守る子育て支援環境の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する相談・学習・交流の場となる支援センターの充実。 ・世代を越えた町民相互の交流を促進するための体制・機能づくり。 ・子育てによる生活活動の制限をみんなで支える取組みで、安心して子育てできる環境づくり。 ・家庭や地域の教育力の向上に向けた学習機会の提供、教育環境づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町民交流センター整備(子育て世代活動支援センター等)(基幹:高次都市施設) ・町民交流センター整備(図書館等)(提案:地域創造支援事業) ・(新)桂桜公園、都市公園大石田、大石田公園改修整備(基幹:公園) ・ふれあい休憩広場(基幹:地域生活基盤施設) ・にぎわい多目的広場整備(基幹:地域生活基盤施設) ・子育て支援推進事業(提案:まちづくり活動推進事業)
<p>3.民間主体の新たな観光交流イベントの創造。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大石田町の魅力を再発見するとともに観光施設の充実を図る。 ・地域や老人クラブなどの民間活動の中から、新たな町の顔となる観光交流イベントを発掘、創造する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内・誘導サイン情報板整備(基幹:地域生活基盤施設) ・観光まちづくりマップ作成事業(提案:地域創造支援事業) ・観光まちづくりホームページ作成事業(提案:まちづくり活動推進事業) ・高齢者生きがいをづくり支援事業(提案:まちづくり活動推進事業) ・観光交流イベント創造支援事業(提案:まちづくり活動推進事業)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域が一丸となるまちづくり活動への取組み <p>大石田町の風土や文化、地域資源を活用した「雪灯ろう街道」や「大石田ひなまつり」は、地域や商店街、各家庭が主体となって地域の活性化に取り組むイベントであるとともに大石田町を代表する一大観光イベントに成長した。町では今後、年間を通じた地域の賑わい創出に向けて、高齢者の健康づくりや生きがいをづくり活動を支援していく中で、新たな大石田町の「顔」となる物産や観光イベントの発掘に力を入れるとともに、観光ボランティア「虹の町案内人」の育成など、人や産業といった地域全体が活性化する取り組みを行っていくものである。</p>	

都市再生整備計画の区域

大石田拠点形成地区(山形県大石田町)	面積	129 ha	区域	大石田町緑町、桂町、四日町、駅前通りの全部と大石田町大石田、豊田の一部
--------------------	----	--------	----	-------------------------------------



大石田拠点形成地区(山形県大石田町)整備方針概要図

目標	大目標 公共施設の再構築に伴う町民コミュニティの確立とふれあい空間、賑わいの創出。 〔目標1〕高齢者の健康づくりと生きがいづくりを促進し、社会参加につなげる。 〔目標2〕町民交流の場の活用による子育て支援環境の充実を図る。 〔目標3〕町民・事業者活動による新たな観光交流イベントの創造を図る。	代表的な指標	公共施設の住民満足度 (%)	14.7 (26年度) → 52.8 (31年度)
		地区内の年間公園利用者数 (人/年)	1,000 (26年度) → 1,500 (31年度)	
		観光入込客数 (人/年)	186,400 (25年度) → 192,000 (31年度)	

